

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501392		
法人名	合資会社三重福祉会		
事業所名	安東苑		
所在地	津市安東町2004		
自己評価作成日	令和2年7月1日	評価結果市町提出日	令和2年10月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470501392-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470501392-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 7 月 17 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人生の半分は自分の為に後の半分は人(社会)の為に の理念のもと 安東苑のモットー「笑う門には福来る」を目標に入居者様 職員がいつも笑顔であるように また職員の離職率も低く安定した 介護を提供出来ている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津インターより西に車で5分ほどの田園に囲まれた静かで長閑な環境の中、事業所は立地している。2003年開業以来積極的に地域と交流を行って来ており、近隣住民より野菜の差し入れやイベントの参加など周辺地域での事業所の認知度は高い。また2ユニットが渡り廊下で自由に行き来出来ることから、利用者の日常的な交流はもとより職員も情報共有、利用者保護に役立っている。職員も地域出身者が多く在職し離職率も低く利用者と同じ目線で明るく支援を行っている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員の目のつく所へ数か所提示している。副理念の笑う門には福来るも心にとめて笑顔が見れる職場を心がけている。	開業以来の理念を職員は理解し、ボランティアの気持ちを自然に持っている。利用者が過ごしやすいように工夫した衣服やエプロンを自宅で作ってきたりして利用者への思いが強く理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自覚を持ち、ごみ収集の掃除など施設の行事の参加を誘ったりしている。本年度は新型コロナウイルスの影響で日常的な交流は難しい	コロナの影響で最近の地域交流は難しくなっているが、地域のごみ収集の当番には職員、利用者で参加している。長年の地域への周知活動により近隣より野菜の差し入れがたびたび届くなど地域の中に認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加やボランティアの方を受け入れているが、運営推進会議はコロナウイルスの影響で実践されていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見は職員全員で共有しているがコロナウイルスの影響で運営推進会議は行われていない	運営推進会議へ家族の参加を呼び掛けたり、コロナで実現しなかったが市の担当者の参加の下、介護保険の説明会を企画するなどして様々な人に関心を持ってもらい、取り組みへの意見を取り入れようとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通常なら運営推進会議に参加してもらっているがコロナウイルスの影響で出来ていない。現在は生活保護の方が2名いる	利用者に生活保護受給者が複数名おられることから、市とは連携、報告は頻繁にとっており、事業所の現状を把握してもらっている。当期もその方の終末期のあり方について援護課と連絡を取り合い相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を月1回の会議で行い、日々の申し送り職員全員で共有している。安全性を考え門の施錠はしているが、日中は玄関の施錠はせず自由に出入り出来る。	本部で行われる身体拘束の会議に職員は参加し、研修内容を事業所に持ち帰り職員に周知報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議で議題に出し虐待を見過ごさない様になっている。無意識なものを含め虐待になっていないか自己チェックや職員間で相互にチェックを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在利用されている方はいないが今後必要とされている方もいる為、活用を視野に入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を用いて十分な説明を行い職員も利用者や家族から質問があった時は答えられる様、疑問点は調べるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の申し送りで利用者の意見をだし検討している。利用者、家族が気軽に意見、要望を出せる様な雰囲気心がけている	職員と利用者が参加し利用者の思いや意向を職員が聞く'安東苑会議'を毎年不定期に開催し、意向の把握に努めている。家族も職員と会話しやすい雰囲気と感じており積極的に意見を出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は月1回の検討会に代表者や管理者に伝えている。日常の仕事の中でも随時出しやすい雰囲気を心がけている。	管理者も現場に入り職員の意見を聞くようにし、そこででた意見を二か月に一回代表者会議で、運営者に伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を考慮しシフト作成時に個々の希望を取り入れている。昇給時に職員の自己評価を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修資料を提示し研修を受ける機会や声掛けを行い、研修後は職員と研修内容を共有出来るように報告の機会を持つようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	通常ならグループ内の代表者で会議を行っているがコロナの影響で出来ていないが、グループ内のインターネットでそれぞれの施設の取り組みを見て参考にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面談を行い要望などを聞いて受け入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約までに見学や面談を行い要望などを話合っている。利用者と家族の思いを平等に聞き入れそれぞれにとって良い方向を探っていくように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方の見学、問い合わせを随時受け付けており、契約までに本人、家族と面談し必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者の意見などに耳を傾けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を報告している。家族宛てに定期的に季刊誌を発行し施設の生活の近況や個々の近況を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方の面会も歓迎しており、本人の友人・知人の名前を出して話題にし、面会に来てもらった時は本人との関係把握に努め、当時の様子を思い出せる様な関わり方が出来るようにしている	利用者の中には、馴染みの美容院を定期的に利用されたり、コロナ以前は旧友や知人が来苑され部屋で話されたり、正月、盆には墓参りに行かれるなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が安心して関われるようにソファ、机などの配置を工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もその家族が職員として働いていたり、サービス終了後の同じ地区の入居様の家人から施設で使えるようなものを届けてくださる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で把握に努めたり、毎日のさりげない会話、表情、行動などカルテに記載し日々の申し送り、ケア会議で意見交換している	日常的に利用者ど会話して利用者の思いを聞き取るようにしている。また利用者と一緒に夜勤帯や、入浴時などを利用してゆっくり話し合い現在の利用者の意向の把握に努めている。その情報は日誌やカルテに記載して職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を元に生活環境や人生経験の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を出来るだけ尊重し、本人の生活リズムに合わせた生活が出来様に支援、現状と状態変化も把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の意向などを職員で話し合い介護計画作成に反映している。担当者を中心としたケア会議を行い、課題やより良いケアのあり方を検討しケアプランを作成している	介護認定更新時や、利用者の状況に変化があったときに利用者、家族の意向を取り入れ介護計画を作成、日常的に担当職員を中心にモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、カルテを活用し本人の状態、思いを職員で共有している。利用者を担当する職員を決め担当者が分析、総括してケア会議の資料としている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員での受診対応や本人希望の外出支援などを必要に応じて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練、救急法など行い安全に暮らしていける支援をしている。理容などのボランティアの方にも定期的に来てもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望にてかかりつけ医を受診されたり、2週間に1回の協力医の往診を利用される方もいる。協力医との連携は密で緊急時にも気軽に対応してもらっている	協力医の往診が2週間に1回あり健康管理を行っている。利用者や家族の希望でかかりつけ医や専門医を受診される方もある。個別の医療状況のカルテが作成されており情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	二名の看護師、週一回の看護師が日々の状態を把握し相談、受診を行い支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族連絡、病院付き添い、看護サマリーを利用して情報提供している。また、入院中は折を見て見舞いに行き本人の状態と、退院の見通しを把握するようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族、本人の意向を同意書に添って説明し意向を聞き主治医と連携をとりながら出来るだけ不安、苦痛の少ない最後を迎えられるよう支援します。	看取りは本人、家族の意向により過去複数回行っており、職員はその経験を重ねている。家族の意向を本人の健康状態の変化に応じて聞くようにして、主治医と連携をとりながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の防災コーディネーターの方に来ていただき定期的に救急救命法の訓練を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練の参加、消防署指導のもと避難訓練、消火器使用方法、職員の緊急連絡網にて災害時を想定し訓練している。	今期は年2回防火訓練、緊急避難訓練を実施している。近年の国内の自然災害の増加を受け、苑独自の防災マニュアルを作成し、家族アンケートを実施して、家族の協力、意向を確認するなどしている。	事業所の近くに河川がある事から、近年の自然災害増加を踏まえ、夜間の避難の際の職員の役割、避難場所への避難経路、手段の確保等もう一度職員と意見交換などの確認作業をされる事を要望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをもちながらも人生の先輩として敬い排泄時の声掛けは耳元で、足元にはバスタオル、食事時のエプロンも工夫している	グループ全体で定期的に研修を実施して職員の人格尊重の意識の向上を図っている。排せつ時の声掛けは耳元で行い、衣類汚染する利用者にはエプロンや衣服を工夫して利用者の誇りを傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話、表情から思いや希望を引き出しできるだけ自己決定が出来るよう働きかけるようにしているが、難しい場合は選択肢を設けて決定しやすいようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の場として、穏やかに毎日を過ごして頂けるよう、部屋に閉じこもりがちの方には無理なく他の方達とのふれあいが出来るよう支援している。居室にテレビを設置している方もいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	つめ、髭がのびていないか気を配り、正月には和服夏祭りには浴衣を着てもらっている。二ヶ月に一度旭美容学校のボランティアカットを受け入れている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じ物を食べ、食事の下ごしらえ、盛り付け、洗い物なども積極的に手伝いをして頂けている	委託業者が作成した献立にそって食材が届けられ、利用者と職員と一緒に調理、配膳、後始末を行っている。できるだけおいしく味わってもらうため大釜のガス炊飯器を使うなど工夫している。利用者の希望で献立を変更することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は栄養管理された業者より届けてもらい各人に合わせ粥、ミキサー食、刻みなどの形態で提供し、必要な栄養が確保出来るように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛け、必要な場合は本人が磨いた後のチェック、仕上げ磨きをしている。義歯の方は就寝前に入れ歯洗浄剤につけておく。すぐ近くに歯科医院があり、気軽に受診も出来る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の訴えが無い方は頃合いをみてトイレの声掛けをし、できるだけトイレでの排泄が出来るように支援している	トイレでの排泄を目指して、個人の排泄記録に応じてそれぞれ声かけして、見守りを行っている。夜間必要な利用者にはポータブルトイレを準備して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便の日時を記録してパターンを知ると共に水分摂取を心がけたり主治医と相談してその方にあった便秘薬を服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低限、週三回を基本として、一般浴・リフト浴を使い分け安全に入浴してもらるように支援している。入浴チェック表を活用して日をかえて全員入浴出来るように心がけている	週三回、午前中に一般浴、リフト浴を利用して入浴している。利用者の気持ちや都合を優先して、入浴順番を決める事なく、季節には菖蒲湯を用意するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温・換気に気を配っている。就寝・起床時間もその日の状態により柔軟に対応している。本人希望により主治医と相談し、眠前薬服用している方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用して薬が変更になったり、臨時薬が出た場合、服用後状態をカルテ記載し何かあれば主治医と相談し、本人の状態をみながら適宜にその必要性を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じて洗濯物干し・たたみ・洗い物などを無理のない範囲で役割を持ってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑内での歩行は自立していても外出時は車椅子を使用しなければならない方が増えており全員揃っての参加は難しくなっているが、花見・紅葉狩り・旅行・外食などの機会を作っている	花見や地域の祭りなど計画的に外出の機会を作っていたが、現在コロナ感染の危険を避けるため、苑外への外出は自粛しているが、庭先にベンチを設置したり、菜園を作ったりして希望者は外気浴を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで管理しているが、こずかい程度の金銭管理をされている方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑の電話を利用して頂いている。携帯電話を持ち利用されている方もおられる。年賀状や手紙のやり取りが出来るようにも支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温を調整し換気にも気を配り、居心地の良い空間を心がけている。食事席など希望を聞き配慮して、良い関係で居られるよう支援している	苑内はバリアフリーで利用者は自由にユニット間を往来し、職員、利用者と交流している。壁にはイベントでの利用者と職員が笑顔で触れ合っている写真が多数掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席はほぼ決まっているがそれ以外の時間は自室でパズルをしたり、気の合う人とおしゃべりをしたり、テレビを見たり、自由に過ごせるように随所にソファなどを置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・家族の写真・家族からのプレゼントを飾ったり、花の好きな利用者には花を飾り 居室の清掃・整理整頓に努め、居心地の良い空間を作るようにしている	衣類ダンスやグループ内の福祉用具レンタル会社からレンタルされた介護用ベッドが設置され居室はシンプルにまとめられている。入居者の中には観葉植物の植木鉢を多数持ち込まれて楽しまれている方や使い慣れたいすなどを配置されている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室などには手すりを取り付け、通路には余計なものを置かず、机や椅子の配置にも気を配っている		